

付属資料



後期基本計画の策定経過

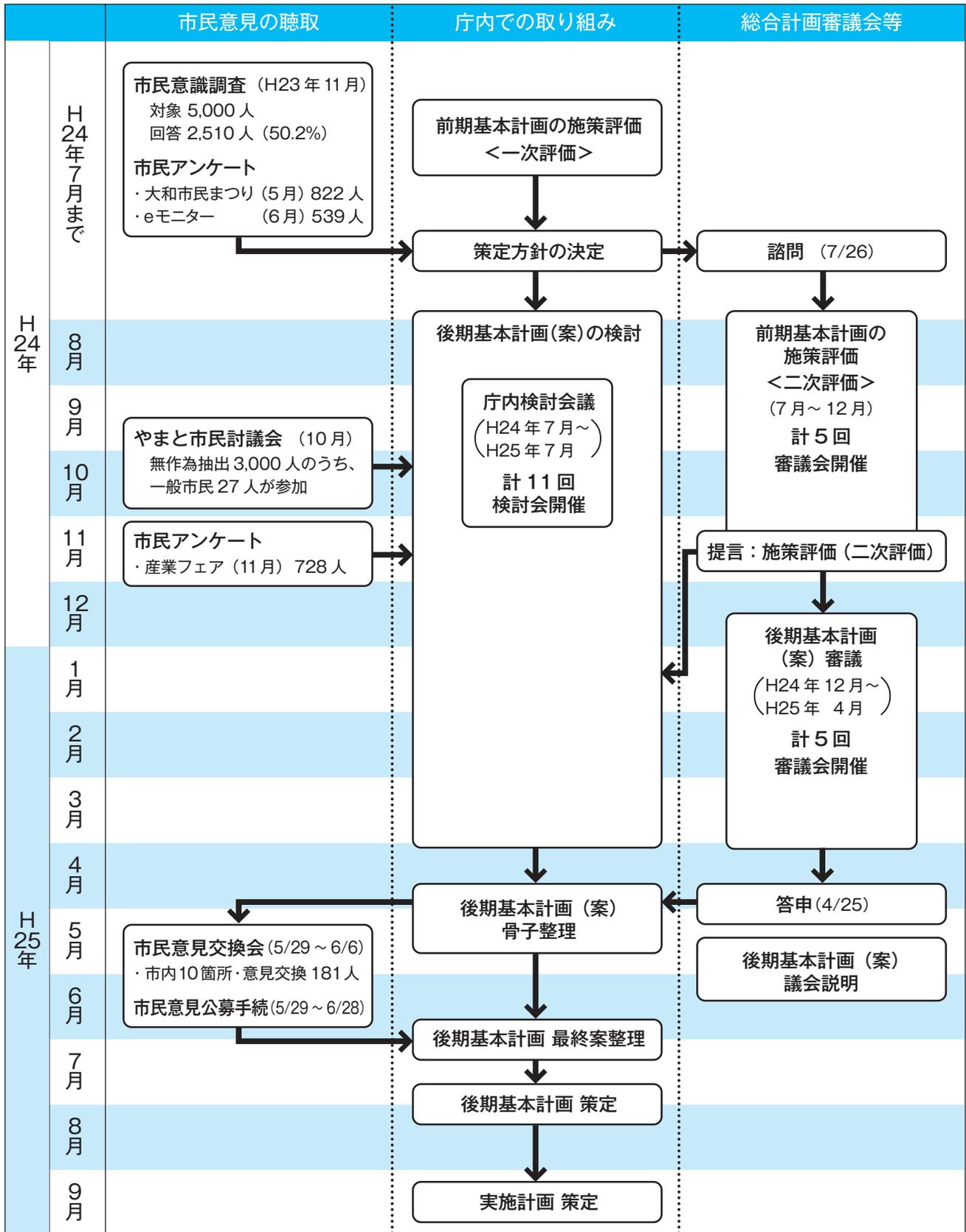
市民参加の状況

第8次大和市総合計画

後期基本計画（案）について（諮問、答申）

成果を計る主な指標と目標値の設定理由

後期基本計画の策定経過



市民参加の状況

市民意識調査

無作為抽出した16歳以上の市民を対象に、アンケート形式による調査を実施した

- 調査対象：大和市在住の満16歳以上の男女個人
- 調査期間：2011年
(平成23年11月30日～12月14日)
- 対象人数：5,000人
- 回収結果：2,510人(回収率50.2%)
- 調査内容：①市への愛着
②定住の意向
③まちづくりの分野についての重要度と満足度
④各施策に対する意識
⑤各施策における事業の優先度などについて13問の質問を設定

市民アンケート

やまと市民まつり及び産業フェアの会場において、来場者を対象に各施策における事業の優先度(何に力を入れるべきか)について聞き取り調査を実施した

<やまと市民まつり>

- 調査期間：平成24年5月12～13日
- 回収結果：822件

<産業フェア>

- 調査期間：平成24年11月3～4日
- 回収結果：728件

やまとeモニター

市民アンケートと同様に各施策における事業の優先度(何に力を入れるべきか)について、やまとeモニターを活用した聞き取り調査を実施した

- 調査期間：平成24年6月1日～7日
- 対象人数：1,366人
- 回答結果：539件

やまと市民討議会

無作為に抽出した18歳以上の市民3,000人に案内状を送付し、参加の同意をいただいた市民等により討議会を実施した

- 開催日：平成24年10月13日、20日
- テーマ：①人の健康
②まちの健康
③社会の健康
- 参加者：市民27人
市内高等学校在学学生13人

市民意見交換会

後期基本計画の骨子案について、市内10か所においてポスターセッション方式により来場者一人ひとりから意見を聴取した

- 開催期間：平成25年5月29日～6月6日
- 参加者・延べ意見数：181人・412件

市民意見公募手続

後期基本計画の骨子案について、パブリックコメント方式により文書等で意見を聴取した

- 実施期間：平成25年5月29日～6月28日
- 意見数：2件

第8次大和市総合計画後期基本計画(案)について(諮問、答申)

大和市総合計画審議会 会長 殿

第8次大和市総合計画・後期基本計画(案)について(諮問)

このことについて、大和市総合計画・後期基本計画を策定するにあたり、別添「第8次大和市総合計画・後期基本計画(案)」について、貴審議会の意見を求めます。

平成24年7月26日
大和市長 大木 哲

大和市長 大木 哲 殿

第8次大和市総合計画・後期基本計画(案)について(答申)

平成24年7月26日付けをもって諮問を受けました第8次大和市総合計画・後期基本計画(案)について、慎重に審議を行い、その結果、別紙のとおり意見を取りまとめるとともに、別添「後期基本計画(案)」を整理しました。

今後、後期基本計画の策定にあたっては、できる限りその趣旨を反映するようお願いいたします。
(別紙については、下記を参照)。

平成25年4月25日
大和市総合計画審議会 会長 中林 一樹

第8次大和市総合計画・後期基本計画(案)に対する意見

1 将来人口について

- 将来人口については、新たな人口推計によると本市のピーク時人口の増大と時期の延伸が予想されるものの、計画期間内における将来人口の推計に大きな変化が見られないことから、従前のおおりとすることが適切と考えます。

2 土地利用の方針について

- 土地利用の方針については、都市の健全な発展と秩序ある整備を目的とした都市計画の考え方に照らし、長期的な視点による施策の展開が必要となることから、従前からの方針を継承し、前期基本計画と同様とすることが適切と考えます。

3 計画の体系について

- 前期基本計画における施策の評価結果を十分踏まえ、市民から見てより分かりやすい計画体系となるよう、個別目標と行政経営に関する方針を編成してください。

4 個別目標に係る共通事項について

- 個別目標の記述にあたっては、基本構想に掲げる施策の方向性を踏まえつつ、これまでの取り組み結果や社会状況を考慮しながら、現状と課題を明らかにするとともに、課題解決に向けた取り組み方針を記述してください。
- 個々の施策においては、相互に関連性の強いものがあることから、できる限り相関関係の分かる横断的な記述としてください。また、専門的な用語などの使用にあたっては、注釈を付すなどの工夫を行ってください。
- 市民団体やNPO法人など、新たな公共の担い手が一層増えてきていることから、様々な分野における公共サービスの提供にあたっては、これらの団体との積極的な連携と、その取り組み内容について記述してください。

5 めざす成果と指標、主な取り組みについて

- 前期基本計画と同様に、分かりやすいめざす成果を指標とともに掲出してください。
- 指標の設定にあたっては、具体的な取り組みが、施策の成果を適切に反映したアウトカム指標となるよう努めるとともに、実現可能性のある現実的な目標値を設定してください。
- めざす成果を達成するための主な取り組みについては、新規の取り組みや充実していく事業などを中心に、具体的な内容を記述してください。

6 目標の実現に向けてについて

- 後期基本計画の個別目標がしっかりと実現されるよう、行政経営の進め方について、現状と課題を踏まえ、方針を記述してください。

総合計画審議会委員名簿

(敬称略、50音順、答申時)

委員氏名	役職等
池田 勝彦	大和市環境審議会 会長
伊知地 るみ	公募委員
川淵 孝一	東京医科歯科大学大学院 教授
杉下 由輝	公募委員
関水 英子	公募委員
田中 孝司	株式会社地域環境計画 代表取締役
田中 寛規	芸術家
豊田 宗裕	星槎大学 准教授／横浜国際福祉専門学校 顧問
仲 明子	聖セシリア女子短期大学 教授
中林 一樹	明治大学大学院 特任教授／ 大和市都市計画審議会 会長
長谷川 愛子	箏曲家

大和市マスコットキャラクター



★花の精★
やまとかのん



★ふれあいの精★
やまとこころん



★水の精★
やまとみずべー



★緑の精★
やまともっく

成果を計る主な指標と目標値の設定理由

めざす成果	成果を計る主な指標	計算式等	現状値	現状値年月	中間目標値(H28・2016)	目標値(H30・2018)	目標値の設定理由
市民一人ひとりが健康づくりに取り組んでいる	自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合	市民意識調査で測定	63.1%	平成23年11月	69.0%	75.0%	過去2回の調査における市民意識の推移は若干増加しているものの、60歳以上の市民では73.2%（前回72.5%）、60歳未満では57.0%（前回53.8%）に留まっているため、今後、60歳以上では現状値の1割、60歳未満では現状値の3割増やすことを目指し目標値を設定した。
	肺がん検診受診率	肺がん検診受診者数／職域等で受診していない40歳以上の対象者×100	15.5%	平成25年3月	21.5%	27.5%	平成24年度における肺がん検診受診率の状況から、後期基本計画においても目標値を変更することなく27.5%とし、中間目標値については毎年2%ずつ受診率を向上させることを目指して21.5%とした。
心身の健康を維持・増進するための体制が整っている	65歳以上のインフルエンザ予防接種受診率	65歳以上インフルエンザ予防接種者数／65歳以上人口×100	33.9%	平成25年3月	50.0%	50.0%	65歳以上の予防接種は本人の希望に基づいて行われるものであるため、きめ細やかな情報提供に努め、2人に1人が予防接種を受診している状態にすることを目標にした。
	自殺死亡率（人口10万人あたりの自殺死者数）	自殺者数（人口動態統計に基づく実数）／人口（10/1現在）×100,000	20.9人	平成23年12月	15.5人	15.5人	やまと自殺総合対策計画において平成28年度の数値目標を15.5人（平成17年の数値22.1人を30%減少）としていること、また、これまでの実績値等を踏まえ、中間目標値、目標値ともに同じ数値とした。
いざというときに診療を受けられる	休日夜間急患診療所（一次救急）の年間患者取扱件数	休日や夜間に受け入れた内科や小児科の軽症患者の年間受診者数	13,018件	平成25年3月	14,000件	14,000件	過去2年間ににおける取扱件数は、13,000件前後で推移していることを踏まえつつ、二次救急における軽症患者の受診抑制による軽症患者の流入と、健康施策の普及による一次救急受診者の減少を考慮して目標値を設定した。
	二次救急での中度・重度患者の割合	中度・重度患者数／総受診者数	12.1%	平成25年3月	15.3%	17.2%	過去3年間（平成21～23年）における実績では、前年度比で6%ずつ増加していることから、今後も同様の伸び率として目標値を算出した。
市立病院が地域の基幹病院としての役割を果たしている	地域の診療所等から市立病院に紹介された患者の割合	（文書による紹介初診患者数＋救急車による搬送患者数）／初診患者数×100	46.9%	平成25年3月	60.0%	65.0%	国が定める地域医療支援病院の指定要件の一つである紹介率60%を中間目標値とし、5%上積みしたものを最終目標値とした。
	患者満足度調査における満足度の割合	外来患者、入院患者に対する満足度調査で測定	89.1%	平成24年7月	93.0%	94.0%	病院経営計画に掲げる平成26年度までの目標設定（92.0%）に基づき、平成27年度以降、満足度を毎年0.5%ずつ増やしていくことを目標とした。
高齢者が生き生きと暮らしている	高齢者が地域で生き生きと活動していると思う市民の割合	市民意識調査で測定	54.6%	平成23年11月	56.0%	57.0%	経済の動向や、市民一人ひとりの健康状況にも大きく左右されることから、これらのことを考慮して目標値を設定した。
	シルバー人材センターの会員数	年度末会員数	894人	平成25年3月	1,020人	1,090人	シルバー人材センターにおいて、今後、中期計画を策定して具体的な対応を図るが、現時点で、雇用情勢をみながら想定した年約3.5%増の目標値を設定した。
	介護予防講座受講者数	介護予防に係る各種講座の受講者実数	324人	平成25年3月	457人	536人	第5期高齢者保健福祉計画における目標受講者数（平成26年度：390人）をもとに、年8.3%の伸び率で目標値を設定した。
必要な介護サービスの支援が受けられる	介護を必要とする人が安心して暮らしていると思う市民の割合	市民意識調査で測定	47.3%	平成23年11月	55.0%	65.0%	介護保険への関心が高まる40歳以上の市民（第2号及び第1号被保険者）の人口割合が約60%であることから、サービス供給量の増加やサービスの多様化を行うことにより制度周知を図り5%上積みして65%に目標値を設定した。
	介護サービス利用者の満足度の割合	大和市長高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のための実態調査で測定	62.3%	平成23年1月	65.0%	70.0%	アンケートで満足度が低いと回答した市民は、介護サービス利用料の負担が大きいなど、国の制度設計に対するものが大半を占めていることから、市内における介護サービスの拡充等は満足度に与える影響が当初想定より低いと推測し、前期目標値（80%）を10%減とした。

めざす成果	成果を計る 主な指標	計算式等	現状値	現状値 年月	中間目標値 (H28・2016)	目標値 (H30・2018)	目標値の設定理由
障がい者が 地域の中で 自立した生活 を送っている	障がい者の 地域移行率	グループホーム 入所者数 / (施設入所者数 + 長期入院患者数 + グループホーム入 所者数) × 100	39.0%	平成25年 3月	43.1%	45.2%	国のグループホーム、ケアホームへの移 行目標及び施設入所者の削減目標をもと に、本市のグループホームやケアホーム の設置状況などを踏まえ目標値を設定し た。
お互いに 助け合う 地域の関係が できている	地域に支え合う 人のつながりが あると思う市民 の割合	市民意識調査で 測定	41.9%	平成23年 11月	44.0%	46.0%	過去3回の市民意識調査における実績値 の平均を基に、意識調査の実施時点にお いてそれぞれ2%増として目標値を設定 した。
社会保障の しくみが 安定的に維持 されている	国民健康保険 制度における 特定健康診査の 受診率	40歳以上の 大和市国民健康保 険加入者が、特定 健康診査を受診し た割合 (法定報告値)	32.0%	平成24年 3月	55.0%	60.0%	厚生労働省保険局が設定する特定健康診 査の目標受診率については、各保険者との 実績値において大幅な開きがあるもの の、今後の全国的な保険政策の展開に照 らし、国の定める目標値と同様の設定と した。
	保護受給世帯の うち、働ける 世帯(その他世 帯)の割合	働ける世帯(その 他世帯)数 / 保 護受給世帯総数 × 100	21.8%	平成24年 12月	20.6%	20.0%	現状での実績を踏まえつつ、働ける世帯 への就労支援を強化し自立に繋げるこ とから、目標値を設定した。
子どもの心身 の健康が保た れている	妊婦健康診査の 平均受診回数	妊婦健康診査 受診数(補助券使 用枚数) / 妊婦健康診査 補助券交付数 × 14回	10.4回	平成25年 3月	14.0回	14.0回	補助券交付後の流産や妊娠途中での転出 入および出産時の妊娠週数等により受診 回数は減少するが、国が望ましいとする 健診回数の14回を目標値とした。
	4ヶ月児健康 診査の受診率	健康診査を 受診した児の数 / 健康診査対象児の 数 × 100	96.2%	平成25年 3月	98.0%	98.0%	入院等やむを得ない事情により受診でき ない対象児を2%程度と見込み、その他 全員が受診できることを目標とした。
	小学校の給食 残食率(野菜)	野菜料理の 残食重量 / 提供食重量 × 100	12.0%	平成24年 12月	10.0%	8.0%	県下平均値の8%を目標値に設定し、平 成28年度の中間目標値までには、現状 値から毎年0.5%を、平成29年度以降 は毎年1%の減少を目指していくことと した。
子どもの人権 と安全な生活 環境が守られ ている	学校PSメール 世帯普及率	登録世帯数 / 児童・生徒の 全世帯数 × 100	81.0%	平成25年 2月	93.0%	97.0%	非常時や緊急時に学校から各家庭に連絡 が確実、迅速に取れるようにするため、 平成30年度における携帯電話の予想普 及率を目標値とした。
	子どもの交通 事故の市内発生 件数	中学生以下の 子どもの交通事故 の年間市内発生件 数(1~12月)	139件	平成24年 12月	120件	110件	平成22~24年までの交通事故全体に 占める子ども(中学生以下)の交通事故 の平均割合は約11%で、県平均は10% 未満となっていることから、目標値は、 全体事故に占める割合を10%未満とし て設定した。
子どもが夢や 目標をもって 学んでいる	将来の夢や目標 をもっていると 答えた児童・ 生徒の割合 (小5、中2)	小学校5年生と中 学校2年生を対象 とした アンケート調査で 測定	(小) 88.2% (中) 69.8%	平成22年 9月	(小) 89.0% (中) 71.5%	(小) 89.0% (中) 72.0%	平成22年実施の文部科学省調査におい て小学校6年生対象の結果が86.8%で あることから、現状値の継続を目指すこ ととし、また中学校3年生対象の結果が 71.6%であることから、本市の状況を 全国平均値まで引き上げることを目指す こととした。
	児童・生徒の 1か月の平均 読書冊数 (小4~6年) (中1~3年)	小学校4~6年生 と中学校1~3年 生を対象としたア ンケート調査で測 定	(小) 11.3冊 (中) 3.7冊	平成24年 7月	(小) 13.5冊 (中) 5.8冊	(小) 14.0冊 (中) 6.0冊	本への親しみを考えた場合、量と質の双 方の向上を計る指標が求められるが、全 国学校図書館協議会読書調査に準じて設 定した。
不登校や いじめの問題 が少なく なっている	不登校児童・ 生徒の割合	不登校児童・生 徒数 / 全児童・ 生徒数 × 100	(小) 0.57% (中) 3.53%	平成24年 3月	(小) 0.29% (中) 2.51%	(小) 0.25% (中) 2.22%	不登校になる原因は様々であるが、まず は学校に起因する事例の出現をおさえる ことから取り組み、家庭環境への支援等 を図ることにより、平成30年度までに 全国平均を下回ることを目指すこととし た。
	いじめ問題の 解消率	文部科学省に よる、児童生徒の 問題行動等調査に よる	(小) 95.8% (中) 100.0%	平成24年 3月	(小) 100.0% (中) 100.0%	(小) 100.0% (中) 100.0%	一人ひとりの児童・生徒を大切にす る取り組みとして、どの子にも起こり うるいじめ問題への対応が図られてい ることを示すため、100%を目標とした。

めざす成果	成果を計る 主な指標	計算式等	現状値	現状値 年月	中間目標値 (H28・2016)	目標値 (H30・2018)	目標値の設定理由
子どもが 個性・能力に あった教育を 受けている	子どもの個性や 能力にあった 教育が行われて いると思う市民 の割合	市民意識調査で 測定	32.5%	平成23年 11月	35.0%	40.0%	平成23年の市民意識調査の結果を踏まえ、平成28年までは平成23年を超える数値を目指し、その後は市民意識を更に高め、40%を目標値とした。
	特別支援教育ヘルパー充足率	特別支援学級に在籍する児童・生徒の介助等を行うヘルパー数／ヘルパー適正数×100	92.0%	平成24年 5月	100.0%	100.0%	特別支援学級の児童・生徒の支援を充実させ、教育的ニーズに応えられるようにするため、充足率100%を目標とした。
子どもが様々な体験をしながら育っている	放課後子ども教室参加率	全放課後子ども教室における1日あたりの平均参加者数の合計／全児童数	8.4%	平成25年 1月	9.0%	10.0%	子どもたちの放課後の過ごし方が多種多様化している中で、施策推進にあわせてより一層の定着を図りつつ、平成30年度には児童の10%の参加を目標値として設定した。
	児童館の1日あたりの平均利用者数(全22館)	年間利用者総数／年間平均開館日数	451人	平成25年 3月	450人	450人	放課後子ども教室等の拡充により、利用者が減少する見込みだが、各種事業展開により現状の利用者数の維持を目標とした。
	中高生ボランティア参加者数	「大和市民まつりで青少年指導員を手伝う中学生ボランティア」、「こどもと遊ぶ中高生ボランティア」、「青少年センターまつり中学生ボランティア」の参加者数	115人	平成25年 3月	120人	125人	より多くの中高生がボランティア活動を体験することを目指し、現状の参加者数から5年間で約10%の増を目標値として設定した。
安心して子育てをしている	子育てに関する不安を相談できる場があると 思う市民の割合	市民意識調査で 測定	47.7%	平成23年 11月	55.0%	60.0%	訪問事業等の充実により、より一層相談しやすい環境づくりを推進し、5年間で約10%の増加を目指すこととした。
	つどいの広場の1か所1か月あたりの平均利用者数	(市内「こどもーる」における年間利用児童数+保護者数)／(施設数×12か月)	2,007人	平成24年 12月	2,100人	2,200人	前期基本計画における利用者実績を踏まえつつ、中間目標値、目標値それぞれ100人程度の増加を目標値とした。
働きながら子育てが できている	保育所の入所定員数	平成26年度に策定予定の「子ども・子育て支援計画」における保育所における入所定員数	1,660人	平成25年 2月	平成26年度に子ども・子育て支援事業計画の策定に合わせて設定します	平成26年度に子ども・子育て支援事業計画の策定に合わせて設定します	平成26年度に策定する「子ども・子育て支援事業計画」の中で保育所必要人員を定めることとした。
	放課後児童クラブの待機児童数	放課後児童クラブ入所希望者数－入所者数	0人	平成24年 5月	0人	0人	現状を維持し、待機を発生させないことを目標とした。
災害に対して自ら備えをしている	地域防災訓練を実施している自治会の割合	地域防災訓練を実施している単位自治会数／全単位自治会数×100	72.0%	平成25年 3月	76.0%	78.0%	平成25年度からスタンドパイプ消火資機材の訓練を開始したことに加え、さらに地震体験車を活用し活気ある防災訓練を実施することで、各自治会に積極的な参加を働きかけ毎年1%程度の上昇を目指すことを目標とした。
	市と要援護者名簿を共有している自治会の割合	災害時要援護者名簿を共有している単位自治会／全単位自治会数×100	66.4%	平成25年 3月	74.0%	78.0%	毎年度、3自治会程度の協力を得ることを目標に、年間2%の増を目標とした。
	住宅の耐震改修率	耐震性のある木造住宅戸数／木造住宅全戸数×100	88.5%	平成25年 3月	90.8%	92.5%	国の基本方針に基づき平成27年に耐震化率90%を目指すと共に、平成30年には耐震化率92.5%を目標とした。

めざす成果	成果を計る 主な指標	計算式等	現状値	現状値 年月	中間目標値 (H28・2016)	目標値 (H30・2018)	目標値の設定理由
防災・減災の ためのしくみが 整っている	地域で広域避難 場所が知られて いると思う市民 の割合	市民意識調査で 測定	66.8%	平成23年 11月	69.8%	70.3%	年間の総合防災訓練、講演会等の参加 者を2,500人程度に見込み、そのうち 広域避難場所を知らない市民の割合が約 1,000人であることから、毎年約1,000 人程度の周知を図っていくことを目指 し、目標値を算出した。
	指定避難所等の 非常食糧の 備蓄率	東京湾北部地震に 対して想定して いる非常食糧の 備蓄率	70.6%	平成25年 3月	100.0%	100.0%	地域防災計画の修正により、被害想定地 震をより切迫性の高い東京湾北部地震に 変更したうえで、東京湾北部地震に対 して想定している非常食糧に対する備蓄 率を100%にすることを目標とした。
	防災講話の 受講団体数	市が実施する防災 講話を受講した 団体数	45団体	平成25年 3月	55団体	60団体	毎年度、3団体程度の新規参加を得るこ とを目指し、目標値を設定した。
都市の 防災機能が 充実している	防災上重要な 公共建築物の 耐震改修率	耐震性のある棟数 ／全棟数 ×100	97.7%	平成25年 3月	98.4%	100.0%	災害時に防災上必要な役割を担うことか ら、耐震化率100%を目標値とした。
	雨水整備率	公共下水道による 浸水対策整備済み 区域面積／ 事業認可区域面積 ×100	68.2%	平成25年 3月	68.7%	69.0%	浸水被害解消に向けて、大和市公共下水 道事業計画に基づき目標値を設定した。
十分な消防力 が整っている	火災発生率 (人口1万人 あたりの火災 発生件数)	火災発生件数 (1～12月)／ 人口×10,000	2.9件	平成24年 12月	2.7件	2.6件	火災発生件数を抑制するため、消防車両 による防火パトロールを強化し、放火等 の人為的行為ができない環境を整えるこ とで、毎年1件の減少を目指すことを目 標とした。
	救命講習受講者 資格取得者数 (累計)	救命講習修了者数	21,411人	平成25年 3月	28,000人	35,000人	救命講習会の充実に取り組んでおり、平 成25年度に年間2,700人を目標とし、 以降、毎年前年度を上回る目標値を設定 した。
	救急車の 医療機関到着 までの所要時間	覚知から傷病者を 医療機関等に収容 するまでに要した 所要時間の合計／ 搬送人員	36.0分	平成24年 12月	36.0分	36.0分	今後、救急出動件数の増加が見込まれ、 それに伴い現場到着時間や医療機関到着 時間の遅延が予測されているが、救急隊 の現場活動時間の短縮や早期に医療機関 へ収容することで、現状値を維持する目 標値とした。
犯罪の不安を 感じること なく暮らして いる	以前に比べて、 大和市の治安は 良くなったと 思う市民の割合	市民意識調査で 測定	46.0%	平成23年 11月	48.8%	50.0%	防犯活動団体との連携や自主防犯活動団 体への支援など、犯罪が起こりにくい環 境を整えることにより、2人に1人が良 くなったと感じるまじになることを目 標値とした。
	年間犯罪 発生件数	犯罪の年間市内 発生件数 (1～12月)	2,499件	平成24年 12月	2,230件	2,100件	平成24年における犯罪件数のうち、発 生件数の多い自転車盗(754件)につい て、概ね半数減少させることを目指し目 標を設定した。
	自主防犯活動 団体数	市内で地域の防犯 活動を自主的・ 継続的に実施する 団体数	188団体	平成24年 12月	212団体	228団体	主な自主防犯活動団体は自治会である が、自主防犯活動団体数については、自 治会数(単位自治会数152)の1.5倍に なることを目標とした。
交通事故の 不安を感じる ことなく暮ら している	交通事故 発生件数	市内の交通事故の 年間発生件数 (1～12月)	1,267件	平成24年 12月	1,200件	1,100件	市内の発生件数のピークは、平成13年 の2,132件で、年々減少しているため、 平成28年の中間目標値をピーク時の 45%減の1,200件未満、平成30年の 目標値を50%減の1,100件未満とした。
	交通安全教室等 参加者数 (イベントを除く)	イベントなどの 参加者を除いた 交通安全教室等の 参加者数	20,187人	平成25年 3月	22,000人	23,000人	中学校等での交通安全教室の拡大を図 り、平成28年度の中間目標値を22,000 人、平成30年度の目標値を23,000人 とした。
安心して消費 生活を送って いる	消費生活相談の 苦情件数のうち 完結済みの割合	(相談件数－ 継続件数)／ 相談件数×100	99.5%	平成25年 3月	99.5%	99.5%	消費生活相談で受理する苦情件数の迅速 な完結を目指し、現状維持を目標とした。
	家庭用品品質 表示法・製品 安全4法に係る 立ち入り検査に よる適正表示の 割合	検査の結果適正な 表示とした品目／ 検査品目×100	100.0%	平成25年 3月	100.0%	100.0%	適正表示の品目数を現状のとおり100% を保つことを目標とした。

めざす成果	成果を計る 主な指標	計算式等	現状値	現状値 年月	中間目標値 (H28・2016)	目標値 (H30・2018)	目標値の設定理由
航空機による被害のない生活を送っている	時間帯補正等価騒音レベル(Lden)	夕方の騒音、夜間の騒音に重み付けを行い評価した1日の等価騒音レベルを算出し、全測定日についてパワー平均を算出したもの	国の基準改定により、平成25年度から測定		遁減させるよう取り組みます	遁減させるよう取り組みます	環境省において航空機騒音に係る環境基準が示されていることを鑑み、本市における航空機騒音の状況を把握するための指標設定とした。
二酸化炭素の排出量が削減されている	環境に配慮している人が多いと思う市民の割合	市民意識調査で測定	49.3%	平成23年11月	62.0%	67.0%	平成30年までに市民意識を2/3(67%)まで引き上げることを目標とし、現況値を元に目標値を設定した。
	1990年度と比較したエネルギー供給量等に基づく二酸化炭素排出量の割合	当該年度二酸化炭素排出量/1990年度二酸化炭素排出量×100	104.3%	平成24年3月	84.1%	79.2%	環境基本計画において設定した平成29年度までに1990年度(平成11年度)比20%削減を、平成42年度までに1990年度(平成11年度)比30%削減を目標とし、現況値を基に目標値を設定した。
ごみの減量化、資源化が進んでいる	市民一人1日あたりのごみ排出量	1年間の家庭ごみ発生量(ごみ)/人口/365日	459g	平成25年3月	420g	412g	平成21年8月に策定された「大和市ごみ処理基本計画」により、平成19年度の値を基準として毎年1%、10年で10%削減していく計画で目標を設定した。
	リサイクル率	実際に資源化された量/廃棄物の総排出量×100	21.9%	平成25年3月	30.0%	32.0%	平成21年8月に策定された「大和市ごみ処理基本計画」により、平成19年度の値を基準として資源回収量を毎年1%程度増加していくと想定し、その他プラの再商品化及び焼却灰の資源化量を増加させていく計画で目標を設定した。
	ごみ焼却灰の資源化率	1年間のごみ焼却残渣のうち、資源化施設へ輸送し資源化を行った量の割合	19.8%	平成25年3月	45.0%	55.0%	平成21年8月に策定された「大和市ごみ処理基本計画」により、市内での新たな最終処分場の確保が課題となっていることから、焼却灰の資源化を推進することとしており、資源化率の目標を設定した。
ごみのない清潔なまちが維持されている	美化推進月間クリーンキャンペーン参加者数	毎年11月に実施している大和市美化推進月間クリーンキャンペーンの参加者数	3,468人	平成24年11月	5,000人	5,200人	キャンペーン実施日の天候等に大きく影響されるものの、過去の実績などから年間100人程度の増加をめざし、中間目標値及び目標値を設定した。
河川の水質が保たれている	境川、引地川の生物化学的酸素要求量(BOD)	境川及び引地川のBOD平均値	境川 1.3mg/ℓ 引地川 1.0mg/ℓ	平成25年3月	境川 3.0mg/ℓ 引地川 2.0mg/ℓ	境川 3.0mg/ℓ 引地川 2.0mg/ℓ	安心して水遊びができる川を目指すこととし、水源を本市に有する引地川については2mg/ℓを目標値とし、他市からの流入河川である境川については目標値を3mg/ℓとした。
	下水道出前授業の実施校数	小学校4年生を対象とした下水道の仕組みや役割についての授業の実施校数	19校	平成25年3月	20校	20校	市内の小学校全20校において実施することを目標とした。
生活を脅かす環境要因が改善されている	環境基準項目不適合率	環境基準超過項目数/当該年度測定環境基準項目数×100	7.0%	平成24年3月	4.2%	4.2%	環境基準を超過した有害物質数を、2018年度までに、3項目以下とすることを目標とした。
	公害苦情件数	苦情受付、現地調査、事業所への指導まで行った件数	117件	平成25年3月	113件	111件	毎年、対前年比約1%減少させることを目標とした。
緑地が保全され、まちの中の緑化が進んでいる	大和市には、緑や公園が多いと思う市民の割合	市民意識調査で測定	68.0%	平成23年11月	69.5%	70.5%	平成37年までに市民意識を3/4(75%)まで引き上げることを目標として、中間目標値と目標値を設定した。
	民有地に設置された生垣延長(累計)	みどり助成で設置された生垣延長の累計	591.9m	平成25年3月	680m	720m	直近である平成24年度中の延長距離約22mを、今後毎年の延長目標として設定した(10m未満は切り捨て)。
	保全を図っている緑地面積	大和市と賃貸借契約などで保全を図っている緑地面積+行政で所有している緑地面積	90.0ha	平成25年3月	92.9ha	92.9ha	緑の減少が続いている状況の中、前期基本計画で掲げた目標値を維持していくこととした。

めざす成果	成果を計る 主な指標	計算式等	現状値	現状値 年月	中間目標値 (H28・2016)	目標値 (H30・2018)	目標値の設定理由
身近な農地が大切にされている	農地の利用権設定面積	利用権設定面積の合計	4.6ha	平成25年3月	5.0ha	5.2ha	生産者の高齢化等に伴い利用権設定面積が増加しているため、過去の実績を踏まえて目標値を設定した。
	市民農園区画数	市内全市民農園の利用区画数	863区画	平成25年2月	900区画	950区画	抽選倍率及び土地所有者の相続等により閉園となる農園や新規で開園する農園を考慮し目標値を設定した。
市街地の整備が計画的に進んでいる	土地区画整理事業などによる市街地整備の割合	土地区画整理事業等実施面積／市街化区域面積×100	58.1%	平成25年3月	60.2%	60.4%	平成30年度までに土地区画整理事業が完了する予定となっているものを見込み、目標値を設定した。
	プロムナードにおける1日あたりの通行者数	プロムナードにおける平日1日あたりの通行者数	24,195人	平成23年7月	25,850人	26,350人	平成23年の時点で平成25年度の目標を達成している。このため、平成23年の通行者数を基準とし、毎年1%の通行者増および、第4地区再開発施設の利用者増を踏まえ、目標値を設定した。
	渋谷（南部地区）土地区画整理事業の進捗率	整備済面積／施行地区全体の整備予定面積×100	87.6%	平成25年3月	100.0%	—	平成28年度に事業完了予定のため。
良好なまち並みが形成されている	大和市は、良好なまち並みが形成されていると思う市民の割合	市民意識調査で測定	44.7%	平成23年11月	50.0%	52.0%	これまでの取り組みによって、市民の意識は、概ね3年で4%程度増加したことを踏まえ、今後のまち並み整備やまちのルール化による良好なまち並み形成を図っていくことで、3年で3%程度（1年で約1%）の向上を目指すこととした。
	地区計画、建築協定、地区街づくり協定などルール化された面積（累計）	地区計画、建築協定、地区街づくり協定などルール化された面積の累計	121.8ha	平成25年3月	122.8ha	128.3ha	平成30年度までに誘導すべきと考える地区の区域面積を見込み、目標値を設定した。
道路や公園を快適に利用している	都市計画道路の整備率	整備済延長／都市計画道路延長×100	63.3%	平成25年3月	63.9%	64.7%	現在、事業を進めている都市計画道路の完成を見込み、目標値を設定した。
	市民1人あたりの都市公園面積	都市公園の総面積／人口	2.7㎡	平成25年3月	2.9㎡	4.0㎡	大和市都市公園条例及び大和市緑の基本計画で定めている、都市公園の住民1人あたりの敷地面積の基準を考慮し、中間目標値と目標値を設定した。
地域交通の利便性が向上している	大和市は、公共交通機関を手軽に利用できると思う市民の割合	市民意識調査で測定	75.8%	平成23年11月	80.0%	82.0%	コミュニティバスの運行地域拡大や、交通バリアフリーに関する様々な施策を実施することにより、多くの市民にとって公共交通を利用しやすい環境になるため、平成23年の現状値75.8%を踏まえ、中間目標値を80%、目標値は2%増の82%に設定した。
	コミュニティバスの利用者数	コミュニティバス全路線の年間利用者数	332,426人	平成25年3月	638,100人	721,500人	既存ルートにおいては、運行内容の見直しにより、毎年1%の利用者増を見込む。また、平成26年度から、市内の4地域で新しいコミュニティバスの本格運行が始まる予定であり、これによる利用者増を見込み、目標値を設定した。
自転車を快適に利用している	自転車走行空間の総延長	自転車専用道路＋車道に自転車の通行位置と進行方向を明示した路線の整備延長	14km	平成25年3月	24km	35km	主要軸等における自転車通行帯の優先整備路線延長及び関連する補完軸・接続路線における路面標示等の整備予定路線延長（国県道要望含む）を目標とした。
	適正駐輪率	適正駐輪台数／乗り入れ台数×100	98.7%	平成25年3月	99.0%	99.0%	前期基本計画期間に達成した高い適正駐輪率を低下させないように引き続き十分な対策を講じることとし、目標値を設定した。
生涯学習に取り組む人が増えている	市民1人あたりの学習センター年間利用回数	学習センター利用者数／人口	4.11回	平成25年3月	4.30回	4.58回	新生涯学習センターが開館するまでは年0.2%の利用者増を見込み、開館後には年3.3%増になることを目指して目標値を設定した。
	団体企画提案の地域学習交流事業・市共催事業数	学習団体が学習センターに事業計画を提出し、市が地域学習交流事業・市共催事業として承認した事業数	90件	平成25年3月	123件	133件	団体が広く市民を対象として実施する公益的な事業を支援することにより、生涯学習の推進を図ることができるため、平成24年3月に策定した大和市生涯学習推進計画の指標に合わせ目標値を設定した。

めざす成果	成果を計る 主な指標	計算式等	現状値	現状値 年月	中間目標値 (H28・2016)	目標値 (H30・2018)	目標値の設定理由
読書をする人が 増えている	市民1人あたりの 年間図書貸出 冊数	貸出冊数/人口	4.60冊	平成25年 3月	5.15冊	5.87冊	図書館と学習センター図書室を合計した 図書貸出冊数を2%～7.5%伸ばすこと を目標とした。
	図書館や保育所 などでの おはなし会の 延べ参加者数	図書館や保育所な どでのおはなし会 の参加者数の合計	1,933人	平成25年 3月	2,340人	2,580人	図書館や保育所でのおはなし会の参加者 数を年5%ずつ増やすことを目標とした。
スポーツを 楽しむ人が 増えている	日常的に スポーツを 楽しんでいる 市民の割合	市民意識調査で 測定	36.1%	平成23年 11月	37.1%	37.5%	各種スポーツ教室の開催における参加者 を毎年約1,000人ずつ増加させることを 通じて、年0.2%ずつ増やすことを目標 とした。
	市民1人あたりの 公共スポーツ 施設年間利用 回数	年間施設利用者数 /人口	5.79回	平成25年 3月	6.74回	6.85回	公共スポーツ施設年間利用者数を年1% 増やすことを目指して目標値を設定し た。
	総合型地域 スポーツクラブ の設置数	実績数による	0団体	平成25年 3月	1団体	2団体	スポーツ推進計画の推進に合わせ、中間 目標値と目標値それぞれ1団体ずつ増加 させることを目標とした。
多様な文化や 芸術を楽しむ 人が増えている	文化や芸術活動 が盛んに行われ ていると思う 市民の割合	市民意識調査で 測定	42.4%	平成23年 11月	52.4%	56.4%	文化芸術振興のための取り組みを推進 し、毎年2%ずつ増加させることを目標 とした。
	YAMATO ART100 来場者数	YAMATO ART100と して採用した文化 芸術イベントの 総来場者数	105,484 人	平成24年 12月	110,000人	115,000人	大和市民の2人に1人が文化芸術に触れ ている状態にすることを目標とした。
	芸術文化ホール 年間利用者数	芸術文化ホール (メインホール・ サブホール・ギャ ラリー・練習室) 利用者数	—	平成28年度 開館予定	180,000人	230,000人	近隣市における類似施設の実績を参考に 中間目標値を180,000人とし、平成30 年度は、大和市民すべてが芸術文化ホ ールを利用している状態にすることを目標 とした。
郷土の文化が しっかりと 引き継がれて いる	大和市の歴史や 文化は、 しっかりと継承 されていると 思う市民の割合	市民意識調査で 測定	41.5%	平成23年 11月	42.5%	42.9%	文化財に対する関心を高める取り組みを 進め、毎年0.2%（約500人）ずつの増 を目標とした。
	歴史文化施設の 利用者数	郷土民家園十 つる舞の里歴史 資料館十 下鶴間ふるさと館 利用者（入園・ 入館者）数	48,339人	平成25年 3月	50,300人	51,300人	郷土民家園、つる舞の里歴史資料館、下 鶴間ふるさと館の入園・入館者数を前年 度より1%増やすことを目標とした。
あらゆる差別 がなくすべての 人が互いの 人権を尊重し 合っている	地域に差別意識 はないと思う 市民の割合	市民意識調査で 測定	65.8%	平成23年 11月	73.0%	75.0%	前期基本計画期間中における市民意識の 推移を参考に、今後、さらなる差別意識 の解消を図りながら、4人中3人の人が 実感できることを目標とした。
男女共同参画 が実感できて いる	男女が平等で あると感じる 市民の割合	男女共同参画に 関する市民意識 調査で測定	22.4%	平成21年 5月	35.0%	35.0%	前期基本計画期間中における市民意識の 推移から、今後、飛躍的な伸びは見込め ないと考えられることから、前期基本計 画に掲出した目標値を引き続き目指して いくこととした。
	審議会、委員会 などにおける 女性委員の割合	女性委員数/ 全委員数×100	23.8%	平成24年 4月	50.0%	50.0%	第2次やまと男女共同参画プラン前期実 施計画に基づく目標値で、引き続き男女 共同参画社会の実現に向けて目指すべき 割合として50%とした。
地域の中で 多文化共生が 行われている	国際交流が行わ れていると思う 市民の割合	市民意識調査で 測定	19.5%	平成23年 11月	25.0%	30.0%	前期基本計画期間中における目標値の達 成状況を踏まえつつ、今後、災害に備 えた外国人支援ネットワークが進むと考 え、平成30年度における目標値を30% とした。
	外国人を支援 するボランティ ア登録者数	事業、通訳翻訳、 クロスカルチャー セミナー、日本語 ・学習支援の ボランティア登録 者数	245人	平成25年 3月	280人	300人	1年あたり10人程度ずつ増やしていく ことを目標とした。

めざす成果	成果を計る 主な指標	計算式等	現状値	現状値 年月	中間目標値 (H28・2016)	目標値 (H30・2018)	目標値の設定理由
商店街や企業が活発に活動している	大和市は、買い物しやすいと思う市民の割合	市民意識調査で測定	70.1%	平成23年11月	73.0%	75.0%	前期基本計画期間中における市民意識の増加傾向を参考に、厳しい商業環境の中、目標値は現状維持の中でもわずかに上昇させることを目標とした。
	市内事業者が商店会等に参加している割合	商店街団体の加入事業者数 / 市内事業者数 (小売業+卸売業) × 100	76.3%	平成25年3月	77.0%	77.0%	昨今の市内事業者をとりまく状況が厳しいことから、現状を維持していくことを目標とした。
	法人設立数	市民税課への法人設立届の件数	309件	平成25年3月	317件	320件	経済状況の悪化により、前期基本計画の目標値を達成することが厳しいことから、目標値は現状維持の中でもわずかに上昇させることを目標とした。
市内で働く人が増え、生き生きと働いている	市内事業所従業員数	市内事業所で働く従業員数の累計 (経済センサス)	77,815人	平成24年2月	79,000人	80,000人	平成13年と平成18年の従業員数を比較するとマイナス739人と減少傾向にあるが、既存企業の操業環境を確保することにより、現状維持の中でもわずかに上昇させることを目標とした。
	勤労者サービスセンターの加入者数	勤労者サービスセンターの加入者数の累計	3,912人	平成25年3月	4,070人	4,150人	経済状況の悪化により、前期基本計画の目標値が未達成なことから、目標値は現状維持の中でもわずかに上昇させることを目標とした。
地域農産物の消費が安定的に行われている	直売所などで販売する農家数	直売所、庭先、スーパー等での販売及び学校給食との契約をしている農家数の合計	146軒	平成25年2月	146軒	146軒	農家戸数が年々減っている状況の中でも、農家と協力しながら、現状値を維持していくことを目標とした。
	朝霧市、夕やけ市、おさんぽマートの年間開催回数	朝霧市、夕やけ市、おさんぽマートの年間開催回数の合計	202回	平成25年3月	200回	200回	年間の開催予定日から天候等によって開催できない日を考慮し目標値を設定した。
「大和」に多くの人が訪れている	観光イベント・施設の総来場者数	各イベントの年間来場者数 (主催者発表) 及び施設来場者数の合計	1,497,380人	平成25年3月	1,530,000人	1,540,000人	渋谷よさこいにおける来場者数を毎年5,000人ずつ増加させていくことを目指し目標値を設定した。
	フィルムコミッションに対応した撮影件数	フィルムコミッションによる撮影件数 (市及び民間施設を含む)	60件	平成25年3月	66件	72件	現状値を踏まえ、中間目標値と目標値それぞれ約10%の増加を目指し、目標値を設定した。
地域の活動が活発に行われている	地域活動に参加している市民等の割合	市民意識調査で測定	25.9%	平成23年11月	31.0%	33.0%	自治会連絡協議会及び各自治会等の地域活動団体と協力し、地域活動に参加する市民を毎年1%増やしていくことを目標とした。
	自治会への加入世帯割合	自治会加入世帯 / 世帯数全体 × 100	70.7%	平成24年4月	72.7%	73.7%	自治会連絡協議会と協力して加入促進に努め、平成30年度の時点における加入率を3%増やすことを目標とした。
	コミュニティセンターの利用者数	全20館の年間利用者数の合計	345,114人	平成25年3月	359,000人	366,000人	地域コミュニティを活発にするため、これまでの実績値を踏まえつつ中間目標値を設定し、以後、利用者数を毎年度1%程度増加させることを目標とした。
公共を担う市民や事業者が増えている	NPO法人数	主たる事務所の所在地を本市とする市内のNPO法人数	67団体	平成25年3月	87団体	97団体	前期基本計画期間中における団体増加数の推移を参考に、中間目標値として20団体、目標値にさらに10団体増加させることを目標とした。
	市民活動センター利用登録団体数	市民活動センター利用登録団体の数	220団体	平成25年3月	240団体	264団体	市民活動センターと連携した取り組みを推進し、利用登録団体が中間目標値と目標値それぞれ約10%増加させることとした。



「健康都市 やまと」宣言

(平成21年2月1日)

健康は、日々の生活の基本であり、
幸福を追求するために、とても大切なものです。

都市で生活するわたしたち市民が、

生き生きと暮らすためには、

保健、福祉、医療などを通じて

「人の健康」を守るとともに、

安全で快適な都市環境が整う「まちの健康」、

人と人とのあたたかな関係に支えられる

「社会の健康」を育てていくことが重要です。

大和市は、市民一人ひとりの健康な生活の実現に向けた

取り組みを進め、「健康都市」を

目指すことを宣言します。

大和市歌

(昭和39年2月1日制定)

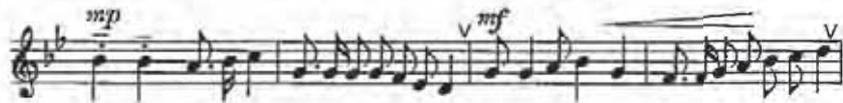
勝井上 承武 夫 作詞
士 作曲



1. かげ ひかるかげ ひかるさわやかなみど
2. わき あがるわき あがるあたらしいぶん
3. はる か ゆくはる か ゆくさかいがわひき



りのだいちえい せい—ま みなぎるところ
かのいずみれき しあ—る ひろののつちに
ちのながれた ゆ みな—く きぼ—う をこめて



ふじ あふり きよくそびえて ここにあり やくしんのまち
さん きうは ひびにさかえて ゆめみのる はんえいのまち
ひと のわの うたもあかるく あすをよぶ えいこうのまち



わがやまとし われらのやまとし
わがやまとし われらのやまとし
わがやまとし われらのやまとし

大和市歌

一、風光る 風光る

さわやかな 緑の大地
英気いまみなぎる ところ
富士阿夫利清く そびえて
ここにあり 躍進のまち
わが大和市 われらの大和市

二、わきあがる わきあがる

新しい 文化の泉
歴史ある 広野の土に
産業は日々に 栄えて
夢実る 繁栄のまち
わが大和市 われらの大和市

三、はるかゆく はるかゆく

境川 引地の流れ
たゆみなく 希望をこめて
人の和の 歌も明るく
明日を呼ぶ 栄光のまち
わが大和市 われらの大和市



市章

(昭和 28 年 11 月 3 日制定)



大和市章

躍進大和市の「大」の文字の全体を円形にかたどり、鳥が翼を広げたような形は大和市将来の円満な飛躍発展を表徴したものです。

市の花

(昭和 44 年 2 月 1 日制定)



野ぎく

市の木

(昭和 44 年 2 月 1 日制定)



山ざくら

市の鳥

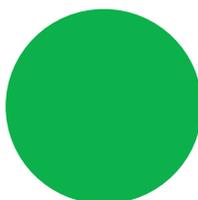
(平成元年 2 月 1 日制定)



オナガ

市の シンボルカラー

(平成元年 2 月 1 日制定)



若みどり

市制 30 周年を記念して制定。若葉、新緑の色「若みどり」は、将来に向けて躍進する青年都市大和市を象徴する色として選ばれました。

福祉の日 シンボルマーク

(昭和 51 年 10 月 15 日制定)



三つの円は国、市、住民と人間の和を、若葉はお互いの手を表現し、手を取り合い協力していこうという思いが込められています。

健康都市 シンボルマーク

(平成 20 年 10 月 1 日制定)



虹は、市民一人ひとりの輝く個性を、太陽は、個々の力が集まる強さとあたたかさを表し、健康と元気に満ちあふれる大和市を象徴しています。